



私のトマト 健康農法



koberyol

トマトを我が家の庭で作るようになって、今年でちょうど五年になる。この五年でさまざまな試行錯誤をし、その結果、素人同然だった私がある程度の成果を残せるようになり、自信を深めることもできた。

この年になって野菜作りに手を染める動機となったのは、妻の頑固な便秘解消にトマトが良い、と聞いたからで、それがいつしかしだいしだいに収穫が増え、プロの腕前を自負できるまでに独自の栽培の研究がすすんだのは自分でも驚くばかりである。

我が家の庭での野菜作りだが、その面積はタテ五メートル、ヨコ五メートルの正方形で、東南の角地にある。日照はもちろん良好で、建物の影になるようなことはない。したがって一日中、日当たりに恵まれた場所といえる。ただし、風を東西南北から受けるので、正しく風について理解しておく必要があるが。

風もそうであるが、ともあれ、まず一番に考え、配慮しなければならないのは、トマトの性質というか、その特徴である。トマトの原産地はペルーのアンデス山脈の高地二千メートルのカラカラに乾燥した荒地である。

それに反し、日本は、春夏秋冬、雨量の多い気候なので、もともとのトマトには適さない土地柄である。アンデスの高地のようなトマト本来の性質に適するような乾燥した状態をいかに実現し、工夫するか、これが一番たいせつな基本的な要素になってくる。したがって水はけをコントロールする、すなわち余分な水分が入らないためには「黒のマルチフィルム」で土の表面を覆い、陽射しを受けて土壌が乾燥することはもちろんだが、雑草が蔓延るのをシャットダウンさせる一石三鳥の効果がある。

肥料は牛糞の堆肥をもちいる。それは牛糞を一定期間土にすき込み、寝かせて堆肥状にしたものだ。あらかじめ土にすき込んであるので、あまり牛糞特有の悪臭はしないし、生の状態ではないのでサラサラとした土のような感触にもなっていて不潔さもない。

堆肥の原料は、牛糞、オガクズ、コーヒー滓の三種類。なお北海道の十勝農協連農産化学研究所の分析によれば、堆肥の成分は、窒素1.2%、リン酸1.2%、カリ1.4%、炭素率19、水分50%である。散布量の目安としては、一平方メートルあたり二キログラムとして、現在の我が家の庭のトマト畑に対しては、おおよそ軽トラック一台分くらいの量としてやってきた。牛糞堆肥には、窒素、リン酸、カリなどの肥料成分の補給だけでなく、土壌の通気性・保水性を良好にして、なおかつ土中の微生物や小動物などの協力も得て、さらさらな肥沃な土に変えてくれるのである。今年には三十本ものトマトの苗をゴールデンウィーク中に植えた。

先の水の対策やら、防風の工夫やらをクリアーして、いかに糖度の高いトマトの創作をするか、いろいろ楽しみながら試行錯誤し、毎日早朝から庭に出て、体やらアタマを存分に働かせることが、同時に私の「トマト健康法」とでも呼べるものになっているのである。

